

参考：参加者の声
平成 24 年度アンケートより抜粋

- ・ 決められた課題に答えはなく、グループのメンバーで共に創造していく過程は、日々の業務面に通じて役立つものであった。(20代 A 班)
- ・ グループ討議において日々の業務では日常に埋もれていしまっている課題を多く発見でき、課題解決のためにはどうすれば良いか考え抜くという貴重な体験ができた。(20代 A 班)
- ・ 大学や教育の現状や課題について考えさせられる機会が多くあり、職員としての自覚や責任を再認識した。(30代 A 班)
- ・ 他大学の参加者と協力し合って取り組んでいく中、自らの欠点や今後どのように仕事を進めるべきか改めて気づきを得られた。(20代 A 班)
- ・ 社会の大学に求められることが多様になっており、それに応えていくために ICT を上手に利用して効率的に公表することの大切さを再認識した。ただし、ICT はあくまでツールなので、根幹をしっかり考えることが大切であることも同時に学んだ。(30代 B 班)
- ・ 様々な気づきから考え方・意識が変わり、職場での取り組み方や行動が変化し、必ず結果を変えていける基盤ができたことを感じた。(20代 B 班)
- ・ 社会的要請が大学に対して強まっている中、状況に敏感になりながら建学の精神を忘れないことの重要性を感じた。(20代 B 班)
- ・ 自大学に得たものを持ちかえり拡散し、若手で研究グループを作りたいと考える。(20代 B 班)
- ・ 意見をまとめる力、自らの意見を多数に伝える力が身に付き、自大学での委員会等への積極的な参加に繋がる。(30代 C 班)
- ・ 情報交換の場、横の繋がりの場としてとても良い研修だった。(20代 C 班)
- ・ 受け身ではなく主体的に取り組めるカリキュラムになっており充実した 3 日間を過ごせた。(20代 C 班)
- ・ 情報という言葉に拒否反応すら持っていたが、思い切ってこの研修に参加して ICT や情報というものを身近に感じる事ができた。(20代 D 班)
- ・ 多くの職員と知り合うことで、情報だけでなく新たな考え方や多視点に触れたり得るものが多く、職員としてあるべき姿や今後の課題が見え、これを活かして自己研鑽に励みたい。(20代 D 班)
- ・ 学生の成長度を ICT により可視化することで学生の気づきを促し、学修意欲の向上に役立てることは非常に重要であることを学んだ。(30代 D 班)
- ・ こういった双方向の研修は、今後の業務やこれからの大学教育の場で活かしていけると思う。(30代 E 班)
- ・ 自らの仕事においてエキスパートになるのは当然だが、他部署や大学全体を通じての動向について常に勉強していく姿勢は持ち続けたい。(20代 E 班)
- ・ 危機意識を共有しているからこそ議論も深まっていくのであり、今後もこの講習会で築くことができた横の繋がりを大切にしていきたい。(30代 E 班)
- ・ 他部署の参加者との意見交換で、専門分野を超えた広い視野の意見を取り入れることができ、自発的行動の重要性を認識することができた。(20代 F 班)
- ・ 協働して一つの目標に向かって議論を重ねた貴重な機会であり、この成功知を自大学に持ち帰り大学の活性化に繋げたい。(20代 F 班)
- ・ 自大学のシステムが当たり前と思わず、現状を把握して本当に必要とされているものは何か真実を見極め、考え、行動に移すことが重要である。(20代 F 班)
- ・ グループで日頃から課題に思っていることについて、自由に議論することができ、多角的な意見を聞けてとても良い経験になった。(20代 F 班)
- ・ 職員が教員に率先して改革を促すこと、高い意識や知識を深めて根拠を持って説明する力が必要とされる。(20代 F 班)